

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 9 月 6 日 (2007.9.6)

【公開番号】特開 2002-44542 (P2002-44542A)
 【公開日】平成 14 年 2 月 8 日 (2002.2.8)
 【出願番号】特願 2000-219029 (P2000-219029)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 5/445 (2006.01)
G 1 1 B 27/10 (2006.01)
H 0 4 H 1/00 (2006.01)
H 0 4 N 5/44 (2006.01)
H 0 4 N 5/76 (2006.01)
H 0 4 N 17/00 (2006.01)
H 0 4 N 7/025 (2006.01)
H 0 4 N 7/03 (2006.01)
H 0 4 N 7/035 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N	5/445	Z
G 1 1 B	27/10	A
H 0 4 H	1/00	C
H 0 4 N	5/44	H
H 0 4 N	5/44	A
H 0 4 N	5/76	Z
H 0 4 N	17/00	M
H 0 4 N	7/08	A

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 7 月 25 日 (2007.7.25)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 T V 番組の再生時に得られる情報に基づいて利用者による当該番組の興味を度々を求める T V 番組視聴装置であって、T V 番組を構成する情報を記憶する装置と、該記憶手段から前記 T V 番組を構成する情報を取り出し再生する手段と、再生中に番組表示の一時停止や、表示速度の変更を操作する再生操作手段と、該再生操作手段による操作の内容を記憶する操作内容記憶手段と、該操作内容記憶手段に記録された操作内容に基づいて利用者による当該番組の興味を度々求める手段とを具備したことを特徴とする T V 番組視聴装置。

【請求項 2】 前記番組の興味を度々求める手段は、利用者が再生した T V 番組の時間を基に興味を度々を求めることを特徴とする請求項 1 に記載の T V 番組視聴装置。

【請求項 3】 前記番組の興味を度々求める手段は、利用者が再生した T V 番組の再生回数を基に興味を度々を求めることを特徴とする請求項 1 に記載の T V 番組視聴装置。

【請求項 4】 前記番組の興味を度々求める手段は、利用者が再生した T V 番組の再生速度を基に興味を度々を求めることを特徴とする請求項 1 に記載の T V 番組視聴装置。

【請求項 5】 前記操作内容記憶手段は、再生中に番組表示の一時停止や、表示速度の変更を操作する再生操作の内容と共に、操作発生時に再生していた番組の記録時点での時刻情報を記憶することを特徴とする請求項 1 に記載の TV 番組視聴装置。

【請求項 6】 前記操作内容記憶手段に対して、その記憶内容を操作が発生した時点で再生していた TV 番組の時刻情報の順番で並べなおす手段と、該並べなおした記憶内容を基に、利用者が再生した TV 番組の範囲の時間を算出する手段とを有し、該算出された利用者が再生した TV 番組の範囲の時間を基に、当該 TV 番組に対する利用者の興味の程度を求めることを特徴とする請求項 5 に記載の TV 番組視聴装置。

【請求項 7】 前記操作内容記憶手段に対して、その記憶内容を操作が発生した時点で再生していた TV 番組の時刻情報の順番で並べなおす手段と、該並べなおした記憶内容を基に、利用者が繰返し発生した TV 番組の範囲の再生回数を算出する手段とを有し、該利用者が繰返し再生した TV 番組の範囲の再生回数を基に、当該 TV 番組に対する利用者の興味の程度を求めることを特徴とする請求項 5 に記載の TV 番組視聴装置。

【請求項 8】 前記操作内容記憶手段に対して、その記憶内容を操作が発生した時点で再生していた TV 番組の時刻情報の順番で並べなおす手段と、該並べなおした記憶内容を基に、利用者が再生した TV 番組の範囲を再生時の速度別に算出する手段とを有し、該再生時の速度別に利用者が再生した TV 番組の範囲を基に、当該 TV 番組に対する利用者の興味の程度を求めることを特徴とする請求項 5 に記載の TV 番組視聴装置。

【請求項 9】 請求項 1 ～ 8 に記載のいずれか 1 項に記載の TV 番組視聴装置において、該 TV 番組視聴装置は、電子番組ガイド (EPG) を取得する手段と、該取得された EPG を記憶する手段と、該記憶している EPG を検索する手段と、現在の日時を取得する手段と、利用者の TV 番組視聴操作を取得する手段と、利用者が視聴した番組の情報を記録する手段と、該利用者が視聴した番組の情報に基づき、前記利用者が視聴した番組に重み付けを行う手段と、利用者が視聴した番組の情報に基づき、お薦めの TV 番組を提示する手段と、前記番組別の重み付けに基づいて、前記お薦めの TV 番組の提示の際の提示順位を変更する手段とを有し、前記操作内容記憶手段の記録内容に基いて求めた興味の程度によって、前記番組別の重みを修正する手段とを備えたことを特徴とする TV 番組視聴装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

【課題を解決するための手段】

本発明は、TV 番組の再生時に得られる情報に基づいて利用者による当該番組の興味の程度を求める TV 番組視聴装置であって、TV 番組を構成する情報を記憶する装置と、該記憶手段から前記 TV 番組を構成する情報を取り出し再生する手段と、再生中に番組表示の一時停止や、表示速度の変更を操作する再生操作手段と、該再生操作手段による操作の内容を記憶する操作内容記憶手段と、該操作内容記憶手段に記録された操作内容に基づいて利用者による当該番組の興味の程度を求める手段とを具備した TV 番組視聴装置である。

さらに、本発明は、前記 TV 番組視聴装置において、前記番組の興味の程度を求める手段は、利用者が再生した TV 番組の時間を基に興味の程度を求めることを特徴としたものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 4 】

さらに、本発明は、前記ＴＶ番組視聴装置において、前記番組の興味を求める手段は、利用者が再生したＴＶ番組の再生回数を基に興味の程度を求めることを特徴としたものである。

さらに、本発明は、前記ＴＶ番組視聴装置において、前記番組の興味を求める手段は、利用者が再生したＴＶ番組の再生速度を基に興味の程度を求めることを特徴としたものである。

さらに、本発明は、前記ＴＶ番組視聴装置において、前記操作内容記憶手段は、再生中に番組表示の一時停止や、表示速度の変更を操作する再生操作の内容と共に、操作発生時に再生していた番組の記録時点での時刻情報を記憶することを特徴としたものである。

【 手 続 補 正 ４ 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 5 】

さらに、本発明は、前記ＴＶ番組視聴装置において、前記操作内容記憶手段に対して、その記憶内容を操作が発生した時点で再生していたＴＶ番組の時刻情報の順番で並べなおす手段と、該並べなおした記憶内容を基に、利用者が再生したＴＶ番組の範囲の時間を算出する手段とを有し、該算出された利用者が再生したＴＶ番組の範囲の時間を基に、当該ＴＶ番組に対する利用者の興味を求めることを特徴としたものである。

【 手 続 補 正 ５ 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 6

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 6 】

さらに、本発明は、前記ＴＶ番組視聴装置において、前記操作内容記憶手段に対して、その記憶内容を操作が発生した時点で再生していたＴＶ番組の時刻情報の順番で並べなおす手段と、該並べなおした記憶内容を基に、利用者が繰返し発生したＴＶ番組の範囲の再生回数を算出する手段とを有し、該利用者が繰返し再生したＴＶ番組の範囲の再生回数を基に、当該ＴＶ番組に対する利用者の興味を求めることを特徴としたものである。

【 手 続 補 正 ６ 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 7

【 補 正 方 法 】 削 除

【 補 正 の 内 容 】

【 手 続 補 正 ７ 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 8

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 8 】

さらに、本発明は、前記ＴＶ番組視聴装置において、前記操作内容記憶手段に対して、その記憶内容を操作が発生した時点で再生していたＴＶ番組の時刻情報の順番で並べなおす手段と、該並べなおした記憶内容を基に、利用者が再生したＴＶ番組の範囲を再生時の速度別に算出する手段とを有し、該再生時の速度別に利用者が再生したＴＶ番組の範囲を基に、当該ＴＶ番組に対する利用者の興味を求めることを特徴としたものである。

さらに、本発明は、前記ＴＶ番組視聴装置において、該ＴＶ番組視聴装置は、電子番組ガイド（ＥＰＧ）を取得する手段と、該取得されたＥＰＧを記憶する手段と、該記憶して

いるEPGを検索する手段と、現在の日時を取得する手段と、利用者のTV番組視聴操作を取得する手段と、利用者が視聴した番組の情報を記録する手段と、該利用者が視聴した番組の情報に基づき、前記利用者が視聴した番組に重み付けを行う手段と、利用者が視聴した番組の情報に基づき、お薦めのTV番組を提示する手段と、前記番組別の重み付けに基づいて、前記お薦めのTV番組の提示の際の提示順位を変更する手段とを有し、前記操作内容記憶手段の記録内容に基いて求めた興味の程度によって、前記番組別の重みを修正する手段とを備えたものである。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

以後、ステップS204、S205により、利用者が、再生操作手段6を操作する毎に、番組再生手段3から、現在、再生している箇所が記録された時刻と、再生速度を求め、その操作内容と、時刻情報、再び再生速度の組を、操作記憶装置15に記録する。

このとき、利用者が再生操作手段6で操作した順番で、再生操作記録手段14に記録する。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0085

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0085】

次いで、変数VC3が1.5以上か否かを判定し(ステップS606)、変数VC3が1.5以上であれば、ステップS610へ進む。

ステップS610では、変数VC5と変数VC4の差を計算し、その差分を、変数VC2に加算する。

そして、再び、ステップS602の処理へ戻る。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0102

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0102】

ステップS807では、変数VB2の値を、重み算出手段19へ出力し、再生回数取得手段17の処理は終了する。

一方、操作記憶装置15から全てを読み出してなかった場合、即ち、まだ、新たに読み出すことができた場合、ステップS804に進む。

ステップS804では、ステップS802の処理で読み出した再生速度が、0より大きいかが否かを判定し、0より大きい場合、ステップS805に進み、変数VB1の値をインクリメントする。

ステップS804において、ステップS802の処理で読み出した、再生速度が、0の場合、ステップS808に進み、ステップS802の処理に戻る。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0103

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0103】

ステップ S 8 0 6 では、変数 V B 1 が変数 V B 2 よりも大きいかなかを判定し、変数 V B 1 が変数 V B 2 よりも大きい場合、ステップ S 8 0 8 に進み、変数 V B 1 の値を V B 2 へ格納し、再びステップ S 8 0 2 の処理へ戻る。

ステップ S 8 0 6 において、変数 V B 1 が変数 V B 2 以下である場合、ステップ S 8 0 2 の処理へ戻る。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 5】

次に、ステップ S 8 0 2 で、操作記憶装置 1 5 の記録内容を、先頭から順番に読み取る

。そして、ステップ S 8 0 4 ~ S 8 0 6 , ステップ S 8 0 8 で、読み取った記録内容の、再生速度に注目する。

再生速度が 0 より大きい場合、変数 V B 1 の値をインクリメントし、変数 V B 1 と変数 V B 2 とを比較する。

変数 V B 1 が大きい場合、変数 V B 1 の値を、変数 V B 2 に格納する。

変数 V B 1 は、当該再生箇所の再生回数を保持している。

再生速度が 0 より大きい場合、その箇所は再生が開始された箇所である。

同様に、再生速度が 0 の場合、その箇所は再生が終了した箇所である。

変数 V B 2 は、変数 V B 1 の最大値を保持しており、この値は、再生した範囲における繰り返し再生回数の最大値である。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 5】

そして、ステップ S 9 0 3 で、ステップ 2 で得た再生結果を、以下の各変数に格納する

。ステップ S 7 0 8 (図 7 参照) の処理で、変数 V A 2 に格納していた、タイムシフト再生中に実際に再生した範囲の時間を、変数 V X 1 に格納する。

ステップ S 8 0 7 (図 8 参照) の処理で、変数 V B 2 に格納していた、タイムシフト再生中に繰り返し再生した回数の最大値を、変数 V X 2 に格納する。

ステップ S 6 0 8 (図 6 参照) の処理で、変数 V C 1 に格納していた、タイムシフト再生中にスロー再生した時間の積算値を、変数 V X 3 に格納する。

ステップ S 6 0 8 の処理で、変数 V C 2 に格納していた、タイムシフト再生中に高速再生した時間の積算値を、変数 V X 4 に格納する。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 8 】

